



しんわ

No.148

新年号

2025年

I H I
播磨病院



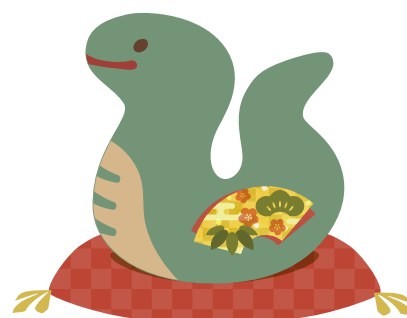
* 理事長 新年挨拶

* 昇格者挨拶

* 職員旅行

* 祝 旭日双光章

* 新人紹介





新年挨拶



新年明けましておめでとうございます。

本年が皆様にとってより良き一年になりますようお祈り申し上げます。

一昨年5月から新型コロナウイルス禍が収束したとはいえ外来や入院患者さんがウイルス検査陽性のことが時々あります。高齢で独居の方が自宅で死後数日で発見され、コロナ陽性であったという情報もあります。ご高齢（一般に65歳以上）の方は「易感染宿主（いかんせんしゅくしゅ）、コンプロマイズド・ホストcompromised host」と呼ばれ、通常では感染することなく生体に症状が出ない微生物によっても、容易に感染して症状がでるといわれています。できる限りワクチン接種を受けてください。

また易感染宿主（高齢者のほかに、がんの治療中や既往のある方、糖尿病、免疫不全などの疾患がある方）は、「免疫弱者」なので一般的な手術後にも感染予防のために抗生物質を長めに投与する必要があります。

いずれにせよ昨年は夏が異常に長く、秋が短く、急に寒くなってきたようです。体調にはくれぐれも気を付けてご自愛ください。

昨年夏はパリ五輪で盛り上がりました。私個人的には柔道の角田夏実（つのだなつみ）選手が素晴らしかったと思います。詳細は省きますが、20歳代はケガ（膝十字帯損傷など）で苦しみ、悩んだ末に52キロ級から48キロ級に大変な思いで減量して、オリンピック代表になります。巴投（ともえな）げと腕挫十字固（うでひしぎじゅうじがため）が得意のようです。私は高校生の時に体育の授業で柔道に少し接しましたが、巴投げは難しくてできなかつたし、これで勝つ人がいるのかと思っていました。腕挫十字固もすごい技です。これをかけられて決まったら1-2秒くらいで「参った」（相手の体を軽く叩いて降参）し、1本となります。降参しないで我慢、放置すると肘や肩の靭帯損傷や脱臼必発でしょう。対戦相手は「分かっちゃいるけど投げられる」あるいは「かけられる」そうです。そして史上最年長である31歳を超えてのオリンピック初優勝。女子48kg級では20年ぶりの個人金メダルを勝ち取りました。しかも夏季五輪で日本選手団が獲得した



理事長・病院長

西川 梅雄

通算500個目の金メダルだそうです。さらに混合団体決勝戦では何と2階級上の銀メダリストに巴投げで勝っています。彼女の素晴らしさは「技」だけでなく、勝った後の礼儀正しさも良かったと思います。負けた相手に対してリスペクト（尊敬）の気持ちを持って礼をして、畳から下りても飛び跳ねて喜ぶような「失礼」な態度はなく、柔道家としては申し分ないと思います。「礼に始まり礼に終わる」というのが日本武道の精神です。

ちなみに剣道や空手道等では勝った時に「ガッツポーズ」をとると失格になります。

またプロスポーツ界では何とんでも大谷翔平選手の大活躍も群を抜いています。昨年は肘の手術後であり、投・打二刀流はできませんでしたが、指名打者として大活躍しました。MLB(Major League Baseball) 史上初の「50-50」最終的に54本塁打59盗塁）を達成、リーグ最優秀選手（MVP）をはじめ種々の賞を受けています。

一方ロシアのウクライナ侵略は相変わらずです。昨年6月19日ロシアと北朝鮮の間で包括的戦略パートナーシップ条約が締結され、10月頃から北朝鮮の兵士がウクライナ戦争に参戦しているとの情報があります。

中東では2023年10月にハマスがイスラエルに奇襲攻撃を仕掛け、イスラエルが宣戦布告して反撃しています。戦火はイエメン、レバノン、イランにも飛び火しています。戦争というのはこんな感じで世界中に広がり「世界大戦」になっていくのでしょうか。

日本国憲法は日本人が守ることができても外国人が守る必要はなく、外人にとっては単なる紙切れに書いた文字であるということを、われわれはしっかり認識すべきです。

ところで昨年秋9月25日から紫金山・アトラス彗星（Tsuchinshan-ATLASしきんざん・あとらすすいせい）が太陽に接近しました。9月27日近日点（太陽に最も近づいた）を通過、その前後数日は肉眼でも見えていたそうです。私の畏友（いゆう）、東京理科大学客員教授西田信一郎先生からこの彗星の写真を頂きました。約6～8万年ごとに観測される彗星であるとの説や、太陽への接近が最初で最後となり二度と回帰しない非周期彗星



紫金山・アトラス彗星（2024年10月15日西田信一郎博士撮影）。

となる可能性もあるということです。いずれにせよ私たちが生きている間に再度見ることはありえません。私は10月の数日間、夕方西の方を見ていましたが、結局見えませんでした。天体に思いを致すことで、人間は大変小さな存在であること、それ故に今この一瞬を大切に生きていくべきとの信念を強くする次第です。

前後しますが医師会活動として昨年8月、赤穂・龍野健康福祉事務所（保健所）所長と隣町の赤穂郡医師会長と私の3人で、一般人向けに「西播磨ACP、人生会議してみましよう漫才」を作成しました。当院で数回猛練習して、赤穂郡上郡町役場で撮影・収録しました。10月から上郡町ケーブルテレビで放映されています。

またYouTubeでも視聴可能です。「西播磨acp」で検索すると出てきます。脚本は私が書きました。駄洒落を数か所いれ、落ちまで無理やり付けたのですが、種々修正されたりして、もひとつ面白くありません。「笑いを取る」というのは難しいです。しかし医者が



「西播磨ACP、人生会議してみましよう漫才」熱演中の3名。
左から圓尾健康福祉事務所所長、大岩赤穂郡医師会長、私。

3人で漫才をするというのは前代未聞のことかもしれません。お暇な時を見つけてぜひご視聴ください。

こんな感じで医師会でも「おもしろき こともなき世を おもしろく（高杉晋作）」日々暮らすように心がけています。

昨年もいろいろなことがありましたが、今年も職員一同、一層奮励努力して西播磨住民の方々の健康をお守りしていく所存です。

本年も宜しくご指導、ご鞭撻、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

合掌。





昇格者挨拶



9月より外来・手術室・透析室の師長を拝命いたしました。

近年、高齢化に伴い、複数疾患や医療と介護の複合ニーズを有する外来患者が増えています。そのため、地域で暮らす人々の健康増進や療養生活を支えるために、「医療」と「生活」の双方の視点を有し、全体像を見据えた介入と正確で効率的な情報伝達が必要です。在宅療養支援を行うために、他部署、他職種、他施設と情報共有し、療養環境調整や生活指導、治療選択の意思決定支援に取り組んでいます。

今後も「患者さんや家族にとって安心できる存在であるために、患者さんや家族の思いに寄り添い、丁寧な説明を心掛け、安全な看護を提供する」ことを目標に、在宅療養支援のニーズに十分に対応できる人材の確保・育成を行い、看護の質向上に努めます。

また、スタッフが安心して発言や提案し、個々の能力を発揮することができる職場作りを目指します。今後ともご指導の程よろしく申し上げます。



外来・手術室師長
(兼) 内視鏡センター師長

松村 裕子

9月より外来・手術室・透析室の主任となり3ヶ月が経ちました。思いもよらない任命で私にできるのかと不安でしたが自分が成長出来る機会と思いお受けしました。

外来では周囲を観察し「どうされましたか」「大丈夫ですか」と声を掛ける基本が大切だと思います。

外来は病院の顔と言われています。観察・傾聴・アセスメントを行い迅速な対応、接遇にも気を付け、患者様や家族が安心して安全・安楽な治療を受けれる看護が提供できる様に努めていきます。

師長・スタッフと共に協力し、努力していきたいと思っています。よろしくお願い致します。



外来・手術室主任

三浦 陽子



職員旅行

3階病棟 中藪ひなた

10月27日、11月23日の職員旅行に参加してきました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどの院内行事が中止となっていました。今年から少しずつ再開しており、久しぶりの職員旅行となりました。

今年の目的地は香川県でした。中野うどん学校と四国水族館に行きました。

中野うどん学校では、うどんの生地を伸ばしてカットする体験と、うどん生地を作る体験をしました。丁寧に伸ばして同じ細さに切ること、美味しいうどんが出来ていると知りました。個人的には上手にカットできたと思っていたのですが、家に帰って麺を茹でてみると、きしめんのような太い麺や、細すぎる麺などばらばらで、生地を伸ばすのもカットするのもセンスが必要だなと思いました。うどんの生地を作る体験では、アップテンポな曲に合わせてうどん生地を足で踏んで伸ばして行きました。参加者全員がノリノリで踊っていてとても楽しい体験でした。昼食にうどんを食べましたが、午前中にうどん作りの大変さを知ることができていたので、うどんがより一層美味しく感じました。

四国水族館では、瀬戸内海・太平洋に生息する生物をたくさん見る事が出来ました。実は、私は学生時代に香川に住んでおり、四国水族館にも行ったことがありましたが、その時とはまた違った生物を見る事が出来て、懐かしい気持ちと新しい発見があり、とても貴重な体験となりました。

レク委員として今回参加しましたが、各部署から多くの方に参加していただきました。そして、参加した方全員の楽しむ姿を見る事が出来て、無事に2日間の職員旅行を終える事が出来て本当に良かったです。職員旅行や他の院内行事が、同部署だけでなく他部署の方々と交流を深めてもらえる機会になると嬉しいです。ありがとうございました。





祝 旭日双光章

理事長・病院長 西川 梅雄



理事長補佐・病院長補佐
西田 英之

医療法人 IHI 播磨病院 理事長補佐・病院長補佐である西田英之氏に対し、令和6年秋の叙勲で旭日双光章が授与されました。衷心よりお祝い申し上げます。

皆様ご承知の通り西田氏は当院へ薬剤師として昭和52年11月から勤務されています。その後薬剤部長、診療技術部長を歴任し病院長補佐、理事長補佐にも就任され現在に至っています。そして昨年からは相生播磨MS合同会社の社長に就かれ、しかも理事長補佐（兼）病院長補佐も続けて頂いています。

内閣府発表令和6年秋の叙勲受章者名簿によると、旭日章及び瑞宝章を合わせて3987名の方々が受章されました。このうち旭日双光章は534名、瑞宝双光章は1052名が受章されています。西田氏の功労概要は「薬事功労」で主要経歴は「元（一社）兵庫県薬剤師会副会長」となっています。

功績概要として

- 1) 平成4年兵庫県病院薬剤師会理事、その後副会長、会長を歴任し現在顧問。
- 2) 平成8年兵庫県薬剤師会理事、副会長を歴任し現在は監事。
- 3) 平成18年災害医療特別委員会を立ち上げた。

平成22年「薬事功労者厚生労働大臣表彰」受彰

平成27年「兵庫県健康功労者表彰」受彰
薬剤師の病棟業務推進、災害支援、30年間のラジオパーソナリティーなどです。

前後しますが西田氏は阪神・淡路大震災、中越地震、東日本大震災、熊本地震などで地震発生早期から現地に援助に入っておられます。有給休暇をとって危険を顧みず被災地へ行かれた西田氏に敬意を表します。

当院関係者が叙勲を受けるというのは病院開設以来初めてのことです。今後のご健康とご多幸をお祈りするとともに、当院だけでなく世の中のために尽力して頂きたいと思えます。

この度の受章誠におめでとうございます。

